



テーマは「愛」

市長 昨年のS.L.運行では、商店街の動きに期待していたのですが、「萌」で駅前の評判は上がりましただけでも、少し物足りなかつた感じがしています。

S.L.は今年も走ることにになり、NHKエンタープライズと松竹が協同で、昨年の「すずらん」を映画化します。この効果を生かしたいと思いますが、昨年を振り返ってみて、留萌に来られたお客さんに、どのようにして満足していただくかが課題だと思っています。

安達 商店街の中には、観光客が来ても業種によっては関係ないとか、参加したくても、人手が足りなくて、ということも聞いています。

今年、どうしたらみんなが参加でき、みんなが潤うかを考えていますね。

梅田 観光客によって直接的に影響はなくても、間接的には潤うことになると思うんです。全ての産業に波及するというのを個々が自覚する必要がありますね。

村山 例えば、モデル地区、モデル商店街を作ってみるのはいかがですか。

ての人が温かい。そういう人一人でも増やす、育てることですね。

昨年はいろいろな苦言も出ていました。はじめての試みで、準備段階で分からないことも多かつたけど、あとからフォローして、駅前広場の「市」もできてきた。

今年、日帰りから滞在型へいければいいですね。S.L.に乗って、「暑寒別岳登山」とか「海の幸食べ放題」とか。

市長 アンケートでは、留萌は「海・さかな・水産加工」のイメージです。いかにそのイメージに沿った満足感を高められるかですね。

澤井 道外の人には、留萌ならではの体験型観光もいいですね。例えば、日高の「コンブ採り」のようですね。

全国の景勝100選にも選ばれた「黄金岬の夕陽」との連動も考えられます。

大町の石油基地の跡地を駐車場やキャンプ場にして、昼間は海で遊び、夜は夕陽を見てキャンプするという滞在型メニューもできそうです。

村山 留萌はやっぱりさかなですね。「グルメコース」「名所巡りコース」「ロマンティックコース」などのコース設定もいいと思います。

女性の場合、まずウィンドー・ショッピング。きれいな店だと「入ってみようかな」と気持ち動きます。そこで、ウィンドーが汚い店、店内のレイアウトが悪い店に、専門家を派遣して、店内のディスプレイなどを変えてみて、それが収益にどう影響するか試してみます。で、効果があれば

「うちでもやってみるか」と。澤井 自分の店、自分の商店街と違った範囲ではなく、商圏全体の共通認識を確認して、全体でレベル・アップすることですね。小増も含めて考えることも必要です。

市長 観光客が留萌に何を求めて来るか、セールス・ポイントは何かを考えなければ。観光産業は、そのまち全体の實力を試される産業だと思います。お土産、食べ物、人情、まち並み景観など、観光という視点から見ると、そのまちの価値が分かりますよ。



安達利子さん
・おみやげ屋「萌」
・留萌観光協会観光委員
「固定概念にとらわれず、観光PRに力を注ぎたい」



澤井篤司さん
・澤井石油商事
・留萌商工会議所青年部事業委員長
・中心市街地活性化ワーキンググループ委員
「大きな変遷は、チャンスの枠をも拡げる」



村山ゆかりさん
・留萌支庁
男女共同参画推進員
・萌っこ春待里実行委員長
「大規模でなくていい。小さくても心が伝わる、楽しいまつりの継承を！」

市長 逆に「このまちは何もいいところがないよ」なんていう人に会ったら、幻滅しますよ。安達 実は、「萌」の中にある観光案内所はすごく評判がいいんです。「こんなに親切な案内所はない」というお客さんも多くて、梅田 観光で生きているまちは全



梅田敏英さん
・梅田繊維
・留萌商店街振興組合連合会青年部「商人塾」
・中心市街地活性化ワーキンググループ委員
「21世紀へ向けた、親しみある商店街を目指します」



富田直樹さん
・留萌大道警備
・留萌青年会議所副理事長
「『終(つい)の住みか』となるべく、留萌を創造したい」

安達 「イカ刺し」だって、どこにもある「イカ刺し」ではなく、留萌のは「てんこ盛り」で食べべきなものなど、話のタネになりそうですね。

富田 外から見た留萌を考えるとですね。点を線にするストーリー作り。S.L.を降りて、港で食事して、自転車で黄金岬へ行つて、夕陽を見ながらお茶を飲んで、遅くなつたから泊まっていくとかね。

それとできれば、留萌発のS.L.は先頭を向かせたいのですが。市長 昔あった「転車台」が、今はなくなつてしまつて、方向転換

が出来ないのが残念です。なんとか考えてみたいと思つているのですが。議会で、S.L.運行の永続化を求める意見も出しましたが、道内でも富良野、標茶など希望が多くて、安心はできません。

昨年と今年の留萌の取り組みが実績につながればと思います。いろいろなアイデアを出して頑張りたいですね。

安達 観光客は「ちょっと食べてみたい」という思いがあるようなので、今年は店先でニシンやホタテを焼いて、立ち食いスタイルで食へてもらえればと思つています。

村山 手作りグッズの女性グループは留萌管内にもたくさんあります。昨年、「萌」に出品していた鬼鹿の女性グループ「松ぼっくり」の「リース」は、全国から注文がきて、生産能力以上の人気が出て、嬉しい悲鳴を上げています。

新産業の芽はここ

おみやげ屋としては、まだまだ品数や水産加工品の種類も少ないので、冷凍庫などの設備も増やしたいですね。富田 留萌は全般的にお土産品が少ないですよ。富良野のラベンダーグッズのようにひとつ火が点くと連鎖反応が起るはずですよ。お土産品コンテストなどいいし、とにかく地域性のある留萌グッズを。

市長 観光と地域の産業振興を結びつけるには、やはり売れる商品の量産化、企業化が大事です。商店街や会議所の青年部で後押しができませんか。

安達 相談相手になつて欲しいんです。商業者にはネットワークもあるし、いろんな知恵を貸して欲しいですね。違う業種とのネットワークも大事です。市長 新産業創造研究会も先に発

